

優秀賞

うしろも小さなうしろ

茨城県 水戸市立緑岡小学校二年 長谷川 真由

わたしには、とてもかわいいもうとが二人います。二ばん目のいもうとは、まだ生まれたばかりです。いもうとは、とても小さくうまれました。おとうさんの手のひらの大きさしかなかったそうです。うまれた時おとうさんが、

「赤ちゃんがとても小さいから、元気に生きられるように毎日おいのりしようね。」と言いました。わたしは毎日ねる前においのりをしましたが、いつになっても赤ちゃんにあえませんでした。なんかげつもおとうさんとおかあさんは、毎日びょういんに通いました。その時、赤ちゃんがどうしているのか聞くことができませんでした。はなや口からくだを通され、ほいくきの中でがんばっていることを教えてくれました。わたしはそれを聞いて、かなしい気もちになりました。でも、おとうさんとおかあさんは、「小さいけど、生きるためにがんばっているんだよ。」と言いました。わたしはそれを聞いて、すこしあんしんしました。お手紙もいっぱい書きました。クリスマスカードも書きました。

そして、春休みになった時、やっとあえる日がきました。びょうしつのまどの外から、はじめて赤ちゃんを見て、なみだが出そうになりました。とってもかわいくて、手をにぎってあげたくまりました。でも、ガラスがあるので、さわることができませんでした。

わたしは、おとうさんに、「いつになったら、だっこのができるの？」

と聞きました。おとうさんは、「もうすこしで、たいいんだよ。ゆいちゃん、やっとおうちへかえってくるよ。」と言いました。わたしは、とてもうれしくて、うれしくて、赤ちゃんのためにうたをつくってあげました。

やっとないんの日がきました。その日は、わたしの七さいのおたんじょう日でした。車で、おとうさんとおかあさんといっしょにかえってきた赤ちゃんを、いとこたちとつくったうたで、出むかえました。

「小さな赤ちゃん、小さなその手、みんなでかわいがってあげるよ！だきしめたいほどかわいいゆいちゃんだね、きつとだれもがあなたをまっていたよ。みんなのアイドルゆいちゃん。これからよろしく！」

といううたです。わたしの耳ぐらいの大ききの赤ちゃんの手をにぎって、あたたかい気もちになりました。わたしには、さいこうのおたんじょう日プレゼントになりました。